木工製品の紹介など、様々なブースが出展

オープニングセレモニー

川の役割を実感してもらうためにドラゴンボートの乗船体験も実施

真剣な表情で丸太切りを体験する子供たち

「水都おおさか森林の市2008」レポート

森林・林業、都市と森林をむすぶ川の役割や
水の循環、地球温暖化防止などについて理解を深めてもらい、
森林づくりへの参加につなげることを目的としたイベントが大阪で行われました。

森林への興味をさらに持つことができたイベント

一〇月一一日（土）、一二日（日）の二日間に渡って、近畿中国森林管理局、毛馬桜之宮公園、ＯＡＰ周辺（大阪市北区天満橋）にて「水都おおさか森林の市２００８」が開催されました。キャッチコピー〝大川端に森林が出現。身近な森林、使って守ろうみんなのくらし〟を掲げ、一人一人ができることから温暖化防止対策に取り組むということをテーマに、七三団体が協力し合って、子供から大人まで楽しめる様々なイベントを実施。その結果、昨年度を上回る約二万八〇〇〇人の来場者を記録しました。

会場では〝学びのもり〟〝お祭りのもり〟〝遊びのもり〟〝水辺のもり〟〝もりの小道〟といった五つのゾーンが設置されました。〝学びのもり〟では行政機関や報道機関などの取組の紹介（木工製品の紹介など）、森と木の絵画コンクール入賞作品の展示など、約三〇ブースが出展。森林について身近に感じられ、そして、理解を深めることができる展示物の数々を、真剣に見入っている来場者が多かったです。

一方、ステージが作られた〝お祭りのもり〟では、木を使った楽器の演奏会（琴、胡弓、チェロ、だんじり囃子など）の他、大阪すみよし少年少女合唱団による大合唱など、会場を盛り上げていました。また、〝遊びのもり〟では、つるかご編み、木工工作など、自然素材を使って制作する教室を開催。親子で楽しんで作ることができるということで来場者に大好評でした。

そんな中、一際、来場者の目を惹いていたのは〝水辺のもり〟。ここではエンジン付きゴムボートや手こぎで進んでいくドラゴンボートの乗船体験、地元ボランティアによるガイド付きの水上バス大川クルージングなどを実施。乗船後の来場者からは「川と森との繋がりが少しは理解できた気がします」との声を多く聞きました。

なお、これらのゾーンを繋ぐ小道〝もりの小道〟でも、丸太切り＆キットハウス作りの体験会、スタンプラリーなど、賑わいを見せていました。その他、森の恵みを食することができるコーナー（「里山パン」「焼きしいたけ」など）も大人気でした。秋晴れの天候にも恵まれた二日間。様々なブース＆催しによって、森林への興味をさらに湧き上がらせることができたイベントとなりました。

つるかご編みを体験

ハウスキットの組み立てに挑戦

今年も大好評だった苗木（ムラサキシキブ、サルスベリなど６種類）の配布

ステージ（お祭りのもり）では大阪すみよし少年少女合唱団が「アファンのもりのうた」を歌い観衆を魅了